The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	小中学生のための日本語学習語リスト(試案)
Author(s)	バトラー後藤, 裕子
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2010, 6, p. 42-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25075
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

小中学生のための日本語学習語リスト（試案）

バトラー 後藤裕子（ペンシルバニア大学）
ybutler@gse.upenn.edu

A list of Japanese academic vocabulary for elementary and junior high school students in Japan

BUTLER, Yuko Goto

キーワード：日本語学習児童生徒、学習語彙、教科学習、学習言語、年少者

要　旨

本研究は、国立国語研究所が開発中の小学校・中学校の教科書コーパスを用いて、日本語学習児童生徒、および日本語を母語とする児童生徒が、教科学習を行うにあたり必要だと考えられる学習語のリストの作成を試みたものである。リストの作成は、基本的にCoxhead（2000）によって行われた英語における新学習語リスト（NAWL）の選出手順に従ったが、頻度だけでなく、日本語教育実践者による重要度の判断も加味し、最終的に1230語が選出された。ただ、このリストは現段階では試案としての位置づけである。今後、教育現場で使用してもらうことにより、妥当性や有効性の検討を行い、教科による特殊な意味や使い方などの情報を付加する必要があるのかなども吟味することで、質・量ともに、修正を重ねていく必要がある。

1．はじめに

日本語を第二言語として学習する年少者（以下、日本語学習児童生徒）にとって、日本語の習得は、教科学習を円滑に行うための死活問題でもある。授業や教科書などには、日常生活ではあまり使われないような語彙や言い回し、統語表現などが多く使われており、こうした言語使用に習熟しておく必要がある。学習場面で必要な言語能力は、しばしば日常的な言語能力と区別され、学習言語などと呼ばれる。学習言語のとらえ方には（日常的な言語能力との二元化された捉え方を否定する考えも含め）、さまざまなアプローチがあり、統一見解はない。しかし、学習場面で使用される語彙の習得が、教科学習を行うにあたり、ひとつの大きな要であることは間違いない（Scarcella, 2003）。

本研究は、小中学生が、日本語で教科学習を行う際に、重要な役割を果たす学習語彙のリストの作成を試みたものである。リストの作成にあたり、独立法人国立国語研究所が開発中の小学校・中学校の教科書コーパスを用い、日本語指導にあたっている実践者による重要度の判断も添えた形で、最終的に1230語を選出した。このリストは、完成されたリストというよりは、試案としての位置づけであり、現場で今後使用してもらい、フィードバックを得ることで、さらに有効度の高いものにしていくことを目的としている。今回の語彙リストの作成は、主に、日本語学習児童生徒への指導を念頭に置いたものであるが、学習言語の習得自体は、日本語学習児童生徒に限らず、日本語母語話者を含むすべての児童生徒にとって大切なことである。したがって、今回のリストは、将来的に、すべての児童生徒に有益なリストの作成をめざすことを視野にいれた試みでもある。

2．先行研究

2.1　学習語の定義

教科学習を行う際に、学習者が遭遇する語彙は（研究者によって、多少名称は異なるが）、基本的に3つのタイプに大別されることが多い。表1は、Scarcella（2003）が行った分類（p.14）に、日本語の例を追加したものである。学習語とは、日常生活で使われる頻度の高い日常語ではなく、また、特定の専門分野の中だけにしか使われない専門語でもない。複数の教科にまたがって使用されるもので、かつ教科内容の理解に欠かすことのできない重要な語であると考えられている。

表１　教科学習で使われる語彙のタイプ

語彙のタイプ	意味範囲	使用範囲	例（英語）	例（日本語）
一般語 (General words)	特化せず	分野を超えて使用される	already, busy	学校、起きる
専門語 (Technical words)	特化した意味	分野限定	fulcrum, pivot	光合成、電波
学習語 (Academic words)	特化される場合もされない場合もある	分野を超えて使用される	assert, research	比較、分析

専門語は、教科書などでは、太字で表わされたり、用語説明がされていたりする。一方、学習語は、こうした専門語の説明に用いられたりするが、日常的にはあまり使われなかったり、しばしば日常表現とは異なった使い方をされたりする。それにも関わらず教科書ではいちいち意味説明がされていないことが多い。ただ、学習語と専門語の境界線は必ずしも明確ではなく（Hyland & Tse, 2007)、学習者の年齢によっても、基準が変わってくると予想できる。

2.2 日本語における語彙リスト

日本の義務教育レベルでは、漢字に関しては目安となる学年別配当表（文部科学省, n.d.）が存在するが、語彙に関しては、そのような基準はない。学校教育でどのような語彙をどのような順序で指導すべきかを示すガイドラインは存在していないのである。ただ、教育の目安になるような語彙のリストの作成は、今まで多数行われてきた。国立国語研究所（2000, 2001）では、基本語彙に関する122の文献の分析・紹介を行っている。ここでの「基本語彙」とは、「学習者に教育する基本的な語彙のこと」（国立国語研究所 2001, p.5）と定義されており、選出された語彙数もリストによりまちまちである。

この中で、学習語という観点から注目に値するのは、児童言語研究会（1962)「言語要素指導」の中の「児語研国語科教育基本語い第一次試案」、および中央教育研究所（1984）の「学習基本語彙」調査である。いずれも、「思考・認識力をささえる基本語彙」という考えを取り入れている点から注目できる。例えば、児童言語研究会（1962）では、語の重要度の基準として、以下の7点をあげている（国立国語研究所 2000, p.108に引用)。

(1) 自然に覚えられるものは排除
(2) 小・中学生の語彙に限定
(3) 他教科で指導するものは含まない（筆者注：ここでは国語での基本語彙のため)
(4) 頻度数にはこだわらない
(5) 語構成や語体系はとりあえず考慮しない
(6) 自分で使える語（能動語）を選出
(7) 論理語彙に重点をおく

また、中央教育研究所（1984）では、語の選出に以下の基準を設けている（国立国語研究所 2000, p.200に引用）。

(1) 話し言葉、書き言葉の双方で頻度の高いもの
(2) 頻度が高くなくても、
　① 論理的な思考に欠かせない抽象語、上位の概念を表す語
　② 意味的対立により、一定の意味領域を構成しているもの
　③ 話し言葉と書き言葉など文体上の違いがあり、指導上配慮が必要なもの
　④ 他教科の内容を理解するのに必要な語
(3) 生産性の高い造語要素（接頭語、接尾語を含む）

この「思考・認識力をささえる基本語彙」という視点は、学習語を考えていく上で参考になるが、上記の2例でもわかるように、「思考・認識力をささえる基本語彙」の選考基準には一貫した定義があるわけではなく、また、一貫した手法により選出されているわけでもない。

上で紹介したのは、主に国語科における語彙リストであったが、他の教科の教科書で使われている語彙に関する分析研究も、（まだ数はそれほど多くはないが）最近調査が進んできている。小中学生の教科書の語彙を扱ったものは、そのほとんどが、教科書に使われている語彙をリストアップした形のものであるが、中学の教科書コーパスを使い、一般語彙リストとの重なり具合を調べたり（田中 2008）、理科に特化して使われる語（近藤 2008）を抽出したりしたコーパス研究もある。こうした先行研究から、教科学習では、その教科に特化した語が多く含まれていることがわかる。

日本語学習児童生徒を念頭においた語彙分析としては、工藤（1999）がある。これは、成人の日本語学習者を対象にした語彙調査表（国立国語研究所 1984）などと、幼児・児童用に作られた辞典など、全部で6種の資料を比較したものである。6種のうち、3種以上の資料に表れた語は1757語であったが、この中には、子供向けとは思えない単語が入っているという指摘もある（国立国語研究所 2000）。

最後に、最近、中学・高校生の日本語支援を考える会が「学習語彙5000語」を選出している（中学・高校生の日本語支援を考える会 2008）。このリストは、国立国語研究所が行った、理科・社会の中学校教科書語彙調査（国立国語研究所 1986, 1987）など、いくつかの語彙リストを基にして作成されたものである。編集グループ名が示すように、対象は高校生までを含めたもので、語彙のリストだけでなく、意味と文例が付

随したものとなっている。

2.3 英語における学習語リスト

英語圏では、学習語への関心が高く、特に大学レベルでの学習のための学習語の選定が何度かなされてきた。古典的なものとして有名なのが、West (1953) のジェネラル・サービス・リスト (General Service List, GSL) である。これは、英語学習者を念頭に置いて作成されたもので、コーパスをもとにした2000語からなるリストである。この他にも、以前からある4つの類似したリストをもとに作成された大学語彙リスト (University Word List, UWL) (Xue & Nation, 1984) なども、大学レベルのリストとしてはよく知られている。

大学で学ぶ英語学習者を念頭において作成された英語の学習語リストの中で、最近作られ、おそらく最も注目を浴びたもののひとつが、Coxhead (2000) の新学習語リスト (New Academic Word List, NAWL) であろう。NAWLは、延べ語数35万語、異なり語数7万語からなる比較的大規模なコーパスをもとに作成されている。このコーパスは人文・芸術、経済・経営、法律、科学の4分野、28教科からなる広範囲のテクストを網羅していた。このコーパスをもとに、Coxhead (2000) では、570単語家族 (word family) が選出されている。この単語家族という単位は、語幹 (stem) と接辞 (affix) からなる一連のグループをさす。つまり、辞書の基本形である見出し語と、その見出し語から派生した語をひとまとまりにした単位である。例えば、indicate なら、indicated, indicates, indicating, indication, indications, indicative, indicator, indicators はみなひとつの単語家族と数えられる (Coxhead, 2000, p. 218)。ただし、どこまでひとつの単語家族のメンバーに入れるかは、はっきりしないことも少なくない。いずれにせよ、NAWLの実際の語数は570よりずっと多くなることは確かである。Coxhead (2000) は、この570の単語家族を頻度別に10のサブグループに分けている。

2.4 学習語の選出方法

コーパスを使った学習語の選出方法は、いくつかのステップに分けることができる。例えば、Coxhead (2000) は、NAWLの選出にあたり、以下のようなステップを踏んでいた。

2.4.1. ステップ1　コーパスの選択

まず、コーパスを選択または作成しなくてはいけない。このコーパスは、目標とするアカデミック・テクストを偏りなく網羅したものでなくてはいけない。コーパスは、十分な語数からなっているべきことはもちろんだが、目的に沿った形で、広範囲な分野や、多種類のテクストをカバーしていなくてはならない（Conrad, 2005）。コックスヘッド（Coxhead, 2000）が使ったコーパスは、延べ語数35万語を超え、教科書だけでなく、大規模な書籍コーパスの中の科学関連の書籍や、学術論文、心理学の実験マニュアルなど多岐にわたるもので、400人以上の筆者による414のテクストからなっていた[1)]。

2.4.2. ステップ2　基準の設定

学習語を選定するにあたっては、(1) 一般語を除くこと (2) 多くの分野にまたがって使用されていること（つまり、一定の教科に特化した専門語は省くこと）(3) 頻度が比較的高いことの3点が重要なポイントとなる。コックスヘッド（Coxhead, 2000）では、先に紹介したウエスト（West, 1953）のGSLのリストから、最も頻度の高かった2000語を一般語とみなし、リストから除いている。その上で、人文・芸術、経済・経営、法律、科学の各分野に最低10回使用され、28教科のうち、最低15教科に表れたものの中から、コーパス全体での頻度が基本的に100を超える単語家族を選んでいる。

2.4.3. ステップ3　語の選定と結果の評価

基準の設定は、しばしば恣意的に行われるので、この基準で選出された語が、どれだけ妥当なものであるか、その評価を行う必要がある。Coxhead（2000）の場合は、以下の2つの方法で評価を行っていた。まず、学習語とウエスト（West, 1953）のGSLから取り出したもっとも頻度の高い2000語とで、使用したコーパスの中の語のどの程度の単語をカバーするのかを調べた。その結果、学習語と一般語を習得できれば、分析のために使用したアカデミック・テクストの8割から9割の語彙を押さえていたことが判明した。次に、他のコーパスでも、学習語と一般語とで、どれ程の語をカバーしているかどうか調べた。分析に使用したコーパスと類似した特徴からなる新たなコーパス（4分野からなる、延べ語数67万8000語のコーパス）を作成し、同様に語のカバー率を調べたところ、4つの分野の平均で、NAWLが8.5％、NAWLとGSLの最も頻度の高い2000語を合わせると、コーパス全体の語の79.1％をカバーしていた。

2.4.4. コーパス分析を超えた評価

Coxhead (2000)では、以上のような二つの方法を使って、リストの妥当性を検証したが、語リストの妥当性を高めるには、別のアプローチも必要である。まず、上記で示された8割から9割というカバー率は、学習者にとってどのような意味があるのかという問題がある。これだけの語彙を習得したら、大学のテクストをどれくらい理解することができるのだろうか。つまり、これは、選出された語の量に関する問題である。さらに、選出された個々の語が、本当にどれくらいテクスト理解に重要な役割を果たすかという問題もある。頻度が高くても、必ずしも、それが読解の要になる語とは限らない。また、必ずしも指導が必要な語かどうかもわからない。理解面のみでなく、産出面でも同様のことがいえる。つまり、こちらは選出された語の質の問題である。語の重要度の問題とも言い換えられるだろう。

代替の検証法としては、実際に学習者の語彙（量と質の両方）と、理解および産出面でのパフォーマンスとの関係を調べるといった実証的な方法がまず考えられる。さらに、森（2008）などが主張するように、学識者や実践者による判断を加えるというアプローチもある。実際、母語話者を対象にした学習基本語彙表を作成するにあたって、言語学者や教育実践者の判断を選考基準の一つに加えているものもある（例えば, 坂本, 1958；中央教育研究所, 1976など)。

3．小中学生のための日本語学習語リストの作成

3.1　研究の目的

本研究の目的は、小中学生のための学習語リストの作成である。小中学生に対象を絞ったのは、日本では高校受験があり、中学3年生までで学習する内容を、高校受験までにしっかり押さえておくことが、生徒にとって、将来を左右する重要なニーズであるからである。本研究では、主に日本語学習児童の日本語および教科学習指導に役立ててもらえるようなリストの作成をめざす。

3.2　研究方法

本研究では、コーパスを用い、上記で紹介したCoxhead（2000）がとった手順に準拠して、学習語の選出を行った。

3.2.1. ステップ1 コーパスの選出

本研究で使用したのは、国立国語研究所が開発中の「小中高校の教科書コーパス」（非公開、国立国語研究所 2008）である。このコーパスには、2005年度に使用された小中高の検定教科書（各学年、各科目1冊ずつ）が納められており、今回の学習語の割りだしには、この中から小学校1年から中学3年までの9学年全科目（ただし、小学校は英語をのぞく8科目）、計87冊分のデータを使用した。延べ語数69万3,222語、異なり語数4万2,538語であった。このコーパスには各学年、各教科1冊ずつの教科書しか納められていないという制約はあるものの、それぞれの教科の内容は1冊分すべて（一部ではなく）入っているため、単元による語彙の偏りなどは最小限に抑えられていると考えられる。

3.2.2. ステップ2 基準の設定

前述のように、選出の基準は、一般語でないこと、多くの教科をまたいで使用されているもの、頻度が高いものの3つであった。

まず、一般語の取り除きに関しては、日本語では、児童生徒を対象とした日常一般語のリストがないので、日本語能力検定試験（2008年10月現在実施中のもの）の4級、および3級の対象となっている語彙をほぼ日常一般語に相当するものであると仮定して、計2300語を消去した。日本語能力検定試験は、子どもに対象を絞った試験ではないこと、さらに4級、3級の語彙が、本当に小中学生の日常一般語として適当であるかに関しては、疑問の余地がないわけではない。この点は、今後の課題としてきちんと検証する必要があると考えられる。

次に、多くの教科で使用されているものを抽出するために、4科目以上の教科書で使用されているものを選出した。この4科目という数字は、理論的根拠に基づくものではなく、コックスヘッド（Coxhead, 2000）で、全教科数のほぼ半分の教科で出てきたものを選出したことから、本調査でも同じように、小学校全8科目の半分以上の科目ということで、4科目と設定した。こうして残った語彙の中から、頻度数が20以上の語彙を選んで、頻度の高い順に語彙を並べた。

こうしてできたリストの中から、さらに、感動詞（「えー」「まあ」など）、固有名詞、擬似合成名詞（「人達」など）、現在では明らかに使われていない文語、接尾辞（「回」など）、接頭辞（「第」など）、擬態語、擬声語、英語での数詞（「ツー」）、記号などを除き、暫定リスト（ほぼ1500語）とした。

3.2.3.　ステップ3　語の選定と評価

この暫定リストには、まだ児童生徒にとって一般語と考えられるものが混じっていたり、初期指導や日本語クラスの中で、早期のうちに取り上げてしまうものなど（接続詞など）が含まれていたりして、到底十分なリストとはいえなかった。また、先行研究の「思考・認識力をささえる基本語彙」の基準で触れられていたように、頻度の高いものが必ずしも、学習上重要とは言い切れない。

そこで、本研究では、日本語教育の専門家・実践者に、この暫定リストを見てもらい、学習語の絞り込みと、重要度の判断（1から3まで）を行ってもらった。判断を依頼したのは、言語学専門家（大学教員）（1名）、日本語学習児童生徒の指導に携わっている公立小・中学校の教員（小学校2名、中学校1名）、小・中学校の両方で日本語支援している民間指導者（1名）、大学で日本語教師の養成および学部留学生の日本語指導をしている指導者（2名）の7人であった。

その結果、ステップ1で除去した一般語（日本語能力検定試験の4級・3級の語彙）以外にも、子どもたちにとって日常語だと判断されたことば（「きゅうり」など）をさらに除き、最終的に1230語が残った。それを、頻度別に（上位1語－300語、301語－600語、601語－900語、901語－1230語）4つのブロックに分け、ブロックごとに重要度（高、中、低）に分類した。参考資料として、頻度の高いブロック順に、4ページにわたって、リストを載せてある[2)]。

今回作成したリストの検証のひとつとして、先行研究のところで紹介した、中学・高校生の日本語支援を考える会が選出した「学習語彙5000語」との比較を試みた。この高校レベルまでを対象としたリストと、今回筆者がコーパスを使い小中学生のために作ったリストとの重なり具合を調べてみた結果、1230語のうち、その93.4%に当たる語が、中高生用の5000語のリストにも載っていた。

4．考察と今後の課題

今回筆者が選出した1230語の学習語リストは、試みのひとつにすぎず、以下にあげる理由から、現時点では暫定的なものだと考えるべきである。

まず、今回使用したコーパスは、各教科1冊ずつの教科書を対象としている。また、副教材などは含まれていない。児童生徒は、教科学習の中で、教科書だけでなく、さまざまな副教材や文字資料を使いこなすことが要求される。はたして、教科書で使用されている語彙が、児童生徒が教科学習で触れる語彙を偏りなく代表したものかどうかに

関しては、検証が必要である。また、教科書コーパスを使用した都合上、今回の学習語リストは、書きことばに限定したものとなっている。授業中の口頭でのやり取りの中ででてくる語で、日常表現とは異なる意味合いで使用されるものに関しては、このリストから漏れている可能性がある。

また、今回は日本語能力検定試験の4級・3級の語彙を便宜上一般語彙として扱ったが、これもはたして小中学生の一般語として適切であったかどうか、量・質の両面で、検討の余地がある。4級・3級の語彙を抜いた後も、選定者の判断により、きゅうり、キャベツ、うま、うさぎ、バケツ、きつね、リボン、みかん、CD、ゲーム、親など、一般語として除去された語も少なくない。子どもにとってどの語が一般語であるかは、子供の年齢によっても変わってくることが予想できるため、一般語の判断が、判定者が普段接している児童生徒の年齢によっても左右されてしまう。今後、日常生活における子どもの言語使用のデータを実際に収集し、実証的に何が一般語かを割り出していく必要性があるだろう。

さらに、判定者に行ってもらった重要度の判断も、評価のわかれるものが数多くあった。重要度の判断には、多義語であるか否か、実践者の経験から学習者が躓きやすい語であるかどうかなど、複数の判定基準が導入されていた。今回は、7人の平均点を使って重要度の分類を行ったが、評者によるばらつきの大きかったものに関しては、検討が必要である。今後、重要度の基準を明確にし、判定者の数を増やすなどすることにより、改めて重要度の判定を試みる必要があると思われる。

一般語の判定が難しかったのと同様、専門語と学習語の判定にも難しいものがあった。本研究では、専門語を取り除く手順として、Coxhead（2000）の手法に従い、過半数の教科にまたがって使用されている語彙を選んだわけだが、この手順が妥当かどうかは、検討の余地がある。Hyland & Tse（2007）などは、学習語と専門語の区別自体に疑問を投げかけており、学習語は、より一般的に広い分野で使われるものから、教科に特化した特別な使用法を持つものまで、広範囲にまたがるものであると主張している。少なくとも、大学レベルの教科書では、専門により、同じ語でも使用法がかなり異なることから、学習語のリストの実用性は、専門により違いがあると指摘している。本研究が対象としている小中学生は、義務教育中であり、すべての児童生徒が、同じ学習指導要領にもとづいた内容のものを学習することになっているので、専門の違いによる実用性の差といった大学レベルの問題はあてはまらないものの、教科によって語の意味や使われ方が違うという指摘は、非常に重要であり、今後きちんと考慮していかなくてはいけないだろう。

上記の指摘は、こうした語彙リストをどのような形で役立てていくかという点にも関連している。いままでも、学習語に限らず、さまざまなタイプの語彙リストが作成されてきたが、こうしたリストが、どのような形で、どの程度、実践に役立てられているかは明らかではない。残念ながら、その多くは宝の持ち腐れになってしまっている可能性が高い。同じ語であっても、教科によって意味が異なっていたり、使用法が特殊であったりすることが少なくないとすれば、やはり、学習語はリストアップされただけでは意味がなく、コンテクストの中で提示、学習されなくてはならない。また、今回は1230語が選出されたわけだが、この1230という語数が、はたして指導上、どれだけ適当なものなのかの検討も必要となってくる。児童生徒の学年や指導目的、来日前の学習歴などに応じても異なってくるだろう。その際、重要度という指標が、一つの補足的な役割を果たすことができれば理想的である。

筆者が現在、現場の指導者に行っているヒヤリングの中からは、中学生の教科書のリライト教材の作成などの際に、意識的に学習語を使ったり、学習語に注意が向くような記述を行う（例えば、学習語彙を太字にしたり、アンダーラインをひいたりする、学習語には母語での訳語をつけるなど）といったことが、このリストの使い方のひとつの可能性としてでてきている。学習者が実際に学習場面に遭遇したときに、コンテクストの中で、意識的かつ繰り返し学習できるような形を整えることが大切だと考えられる。この他の学習語リストの活用の仕方の検討も、リスト自体の精緻化と同時並行で進める必要があり、今後の課題だといえる。

5．まとめ

本研究では、小中学生を対象とした日本語における学習語の選出を行った。データとして、国立国語研究所が開発中の教科書コーパス（非公開、国立国語研究所、2008）を用いた。Coxhead（2000）が行った学習語の選出手順にのっとり、日本語教育実践者の判断も含めた形で、頻度別、重要度別に1230語が選出された。ただし、現時点では、これはまだ暫定的なリストとして、今後手を加えていく必要がある。このリストは、日本語学習児童生徒を主な対象として作られたが、学習語の習得は、日本語母語話者を含むすべての児童生徒にとって重要なことである。したがって、このリストが、日本語母語話者を対象としたものとしても果たして使えるのかどうか、または、母語話者には新たなリストが必要なのかどうかの検証も必要だろう。こうした検証も含め、今回のリストが、今後、妥当・実用性を高め、教材開発や指導の上で役立てられることを期

待したい。

注

1) Coxhead (2000) の使用したコーパスは、分野により収められているテクストの数に偏りがあるなどとし、問題点を指摘する研究 (Hyland & Tse, 2007) もある。
2) リスト中、カッコ内の漢字表記は、同音語を区別するためのものであり、必ずしも漢字での理解・産出の規準を意図したものではない。

参考文献

工藤真由美(1999) 『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』 ひつじ書房

国立国語研究所(1984) 『日本語教育のための基本語彙調査』 秀英出版

国立国語研究所(1986) 『中学校教科書の語彙調査I』 秀英出版

国立国語研究所(1987) 『中学校教科書の語彙調査II』 秀英出版

国立国語研究所(2000) 『日本語基本語彙 ―文献解題と研究―』 明治書院

国立国語研究所 (2001) 『教育基本語彙の基本的研究 ―教育基本語彙データベースの作成―』 明治書院

国立国語研究所(2008) 『言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』 特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班中間報告 国立国語研究所

近藤明日子(2008) 「中学校教科書の教科別特徴語の抽出 ―理科を例として―」『言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』 特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班中間報告 国立国語研究所 pp.169-174

阪本一郎(1958) 『教育基本語彙』 牧書店

児童言語研究会(1962) 『言語要素指導 (国語教育の体系化I)』 明治図書

田中牧郎(2008) 「中学校の教科書語彙と「一般語リスト」の比較」国立国語研究所『言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』 特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班中間報告書 国立国語研究所 pp.123－129

中央教育研究所(1976) 『学習基本語彙の基礎調査 (研究報告第7冊)』 中央教育研究所

中央教育研究所(1984) 『学習基本語彙(研究報告第25冊)』 中央教育研究所

中学・高校生の日本語支援を考える会(2008) 『用例付学習語彙5000語 日・スペイン語訳』 中学・高校生の日本語支援を考える会

森篤嗣(2008) 「学校教育における「語彙」の教育」『日本語学』 9号 pp.4-15

文部科学省 (n.d.) 「小学校指導要領第1節国語」 <http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301b/990301d.htm> (2009年9月5日)

Conrad, S. (2005) Corpus linguistics and L2 teaching. In E. Hinkel (Ed.), *Handbook of research in second language teaching and learning* (pp.393-409). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

Coxhead, A. (2000) A new academic word list. *TESOL Quarterly, 34*(2), pp.213-238.

Hyland, K., & Tse, P. (2007) Is there an "academic vocabulary"? *TESOL Quarterly, 41*(2), pp.235-253.

Scarcella, R. (2003) *Academic English: A conceptual Framework.* UC LMRI. Santa Barbara, CA: University of California Linguistic Minority Research Institute.

West, M. (1953) *A general service list of English words.* London: Longman.

Xue, G., & Nation, I. S. P. (1984) A university word list. *Language Learning and Communication, 3,* pp.215-299.

小中学生のための学習リスト1（頻度　最高）

重要度　高			
頻度	あたい（値）	したがう（従う）	のべる（述べる）
最高	あてる（当てる）	じっけん（実験）	はかる（図る）
	あわせる（合わせる）	しめす（示す）	はっけん（発見）
	いっぽう（一方）接続	じゅん（順）	はっせい（発生）
	いどう（移動）	しよう（使用）	はったつ（発達）
	うごき（動き）	じょうけん（条件）	ひかく（比較）
	えいきょう（影響）	じょうたい（状態）	ひとしい（等しい）
	えん（円）	しょうめい（証明）	ひょう（表）
	おうずる（応ずる）	しりょう（資料）	ひょうげん（表現）
	おもな（主な）	ず（図）	ひょうじ（表示）
	およそ（凡そ）	せいちょう（成長）	ひらく（開く）
	かいけつ（解決）	ぜんたい（全体）	ひれい（比例）
	かいてん（回転）	たいおう（対応）	ひろげる（広げる）
	かかわる（関わる）	たいけん（体験）	ふくむ（含む）
	がくしゅう（学習）	たいする（対する）	ぶっしつ（物質）
	かこむ（囲む）	たいせき（体積）	ぶぶん（部分）
	かさねる（重ねる）	たいわ（対話）	ぶん（文）
	かだい（課題）	たちば（立場）	へんか（変化）
	かつどう（活動）	たんい（単位）	ポイント
	かつよう（活用）	ちいき（地域）	まじわる（交わる）
	かんさつ（観察）	ちゅうしん（中心）	まとめ（纏め）
	かんする（関する）	ちょうさ（調査）	まとめる（纏める）
	かんせい（完成）	ちょくせん（直線）	むき（向き）
	かんそう（感想）	ちょっけい（直径）	むける（向ける）
	きこう（気候）	つたわる（伝わる）	むすぶ（結ぶ）
	きょり（距離）	つながる（繋がる）	めざす（目指す）
	きろく（記録）	テーマ	めん（面）
	グラフ	てきせつ（適切）	めんせき（面積）
	けいさん（計算）	てじゅん（手順）	もじ（文字）
	けっか（結果）	とい（問い）	もちいる（用いる）
	けんり（権利）	とく（解く）	もとめる（求める）
	こうせい（構成）	とくしょく（特色）	ようす（様子）
	さくせい（作成）	とくちょう（特徴）	よそう（予想）
	ささえる（支える）	とくに（特に）	りかい（理解）
	さらに（更に）接続	とらえる（捉える）	りょう（量）
	さらに（更に）副	ないよう（内容）	れい（例）
	さんこう（参考）	ながれ（流れ）	わ（和）
	さんしょう（参照）	なりたつ（成り立つ）	わる（割る）
	しぜん（自然）		

重要度　中			
あじわう（味わう）	くわえる（加える）	せいき（世紀）	ば（場）
あたり（辺り）	くわしい（詳しい）	せいしつ（性質）	はかる（諮る）
あたる（当たる）	けつえき（血液）	せいひん（製品）	はたらき（働き）
あてはまる（当て嵌まる）	けんがく（見学）	せいぶつ（生物）	はってん（発展）
あらわす（表わす）	けんこう（健康）	せいり（整理）	はっぴょう（発表）
あらわれる（現われる）	げんざい（現在）	ぜんこく（全国）	ばめん（場面）
いかす（生かす）	こうどう（行動）	そだつ（育つ）	ひとびと（人々）
いく（幾）	こうりゅう（交流）	そだてる（育てる）	ひろがる（広がる）
いち（位置）	こたえ（答え）	それぞれ（其々）	ふかめる（深める）
いちぶ（一部）	ことなる（異なる）	た（他）	ふしぎ（不思議）
インタビュー	ざいりょう（材料）	たいよう（太陽）	ふせぐ（防ぐ）
うごかす（動かす）	さぎょう（作業）	たしかめる（確かめる）	ふる（振る）
えがく（描く）	さくひん（作品）	たつ（経つ）	ふれる（触れる）
エネルギー	さっきょく（作曲）	ちがい（違い）	へいわ（平和）
える（得る）	さまざま（様々）	ちきゅう（地球）	ほうこう（方向）
おこる（起こる）	さんか（参加）	チャレンジ	ほうほう（方法）
おさえる（押さえる）	さんそ（酸素）	ちょうり（調理）	ほうる（放る）
おんど（温度）	し（詩）	つく（就く）	まなぶ（学ぶ）
かいはつ（開発）	しくみ（仕組み）	つく（付く）	まもる（守る）
かえる（孵る）	しげん（資源）	つなぐ（繋ぐ）	まわす（回す）
かくち（各地）	しぜん（自然）	どうじ（同時）	み（身）
かくど（角度）	じっさい（実際）	とし（都市）	みぢか（身近）
かくにん（確認）	じゅうよう（重要）	とち（土地）	みとめる（認める）
かず（数）	しゅるい（種類）	とも（共）	もくてき（目的）
かんがえ（考え）	じゅんじょ（順序）	とりいれる（取り入れる）	もと（下）
かんきょう（環境）	しょう（章）	どりょく（努力）	もと（基）
かんずる（感ずる）	しょうひん（商品）	とれる（取れる）	やがて
きおん（気温）	じょうほう（情報）	ながす（流す）	やくわり（役割）
きごう（記号）	しょくひん（食品）	ながれる（流れる）	ゆたか（豊か）
きづく（気付く）	しょくぶつ（植物）	にんげん（人間）	よみとる（読み取る）
きょうりょく（協力）	しるし（印）	にんずう（人数）	より
きんぞく（金属）	すいちょく（垂直）	ぬく（抜く）	よる（拠る）
くふう（工夫）	すう（数）	ね（根）	リサイクル
くみあわせる（組み合わせる）	すうじ（数字）	ねっする（熱する）	わかれる（分かれる）
くらし（暮らし）	すがた（姿）	のこす（残す）	わける（分ける）
くりかえす（繰り返す）	すべて（全て）	のせる（乗せる）	

重要度　低		
あいて（相手）	グループ	とける（溶ける）
あたえる（与える）	げん（弦）	とりだす（取りだす）
あな（穴）	こえる（超える）	ならう（倣う）
いふく（衣服）	じつ（実）	ぬの（布）
えき（液）	しれる（知れる）	ねがう（願う）
えんそう（演奏）	すすめる（進める）	はなしあう（話し合う）
おもい（思い）	たて（盾）	ぶし（武士）
おもり（重り）	たま（玉）	プラス
かさ（嵩）	つかる（浸かる）	ふりかえる（振り返る）
かざん（火山）	つくり（作り）	ぶん（分）
かんじ（感じ）	つち（土）	マーク
きまり（決まり）	てつ（鉄）	メモ
きょく（曲）	でんち（電池）	めもる（目盛る）
くらす（暮らす）	とおす（通す）	ものがたり（物語）

小中学生のための学習リスト2（頻度　高）

	重要度　高			重要度　中				重要度　低		
頻度	あるいは（或いは）	ことがら（事柄）	つまり（詰まり）	あたためる（温める）	こうかん（交換）	だいひょう（代表）	ひがい（被害）	あぶら（油）	さぐる（探る）	ながめる（眺める）
高	いしき（意識）	さいばい（栽培）	ていあん（提案）	あつかう（扱う）	こきゅう（呼吸）	たがい（互い）	ひょうげん（表現）	いき（息）	さつえい（撮影）	にぎる（握る）
	いってい（一定）	さだめる（定める）	ていど（程度）	あらた（新た）	こくない（国内）	たくわえる（蓄える）	ひりょう（肥料）	いた（板）	じく（軸）	にっこう（日光）
	いっぱん（一般）	しせい（姿勢）	データ	いっぱい（一杯）	こじん（個人）	ただ（唯）	ひろがり（広がり）	いためる（炒める）	しずむ（沈む）	ねがい（願い）
	いっぽう（一方）名	しだい（次第）	てんかい（展開）	うち（内）	こてい（固定）	ただし（但し）	ひろまる（広まる）	いね（稲）	じめん（地面）	のこり（残り）
	いんしょう（印象）	じつげん（実現）	どうさ（動作）	うつす（移す）	こめる（込める）	たね（種）	ふうけい（風景）	いのち（命）	しょくりょう（食料）	のち（後）
	おもに（主に）	じっこう（実行）	とうじ（当時）	うったえる（訴える）	さいがい（災害）	たもつ（保つ）	ふし（節）	イメージ	すいそ（水素）	のばす（伸ばす）
	かかわり（関わり）	してん（視点）	とうぶん（等分）	うめる（埋める）	さくもつ（作物）	ちけい（地形）	ふたたび（再び）	いれもの（入れ物）	すいちゅう（水中）	はげしい（激しい）
	かくだい（拡大）	しゅうい（周囲）	とどく（届く）	おおう（覆う）	さゆう（左右）	ちほう（地方）	ふたん（負担）	いろがみ（色紙）	スケッチ	はたけ（畑）
	かず（下図）	しゅちょう（主張）	ともなう（伴う）	および（及び）	さわる（障る）	ちゅうおう（中央）	ふやす（増やす）	うかぶ（浮かぶ）	すごす（過ごす）	ひっぱる（引っ張る）
	かんしん（関心）	しょうがい（障害）	とりあげる（取り上げる）	かい（甲斐）	じき（時期）	ちゅうもく（注目）	ぶんかい（分解）	うちがわ（内側）	すすめる（勧める）	ひやす（冷やす）
	かんれん（関連）	じょうきょう（状況）	のうりょく（能力）	かいがい（海外）	じけん（事件）	ちょうせつ（調節）	へいめん（平面）	うちゅう（宇宙）	せんざい（洗剤）	ふだん（普段）
	きじゅん（基準）	しょうひ（消費）	のぼる（上る）	かきだす（書き出す）	しせつ（施設）	つぎつぎ（次々）	へる（経る）	うみだす（生み出す）	そう（沿う）	ふで（筆）
	きにゅう（記入）	しょり（処理）	はたす（果たす）	かぎり（限り）	したしむ（親しむ）	つながり（繋がり）	へる（減る）	おく（於く）	だいち（大地）	プログラム
	きのう（機能）	じんるい（人類）	はっしん（発信）	かこう（加工）	しつど（湿度）	つりあう（釣り合う）	へんけい（変形）	おとずれる（訪れる）	たいりょく（体力）	へらす（減らす）
	きほん（基本）	ぜんご（前後）	はば（幅）	かさなる（重なる）	しぼる（絞る）	ていこう（抵抗）	ほご（保護）	おもいで（思い出）	たかまる（高まる）	ほね（骨）
	ぎもん（疑問）	せんたく（選択）	はんだん（判断）	がぞう（画像）	しゅうちゅう（集中）	できごと（出来事）	ほぞん（保存）	おろす（下ろす）	たかめる（高める）	まぜる（混ぜる）
	きゅうしゅう（吸収）	ぞうか（増加）	はんのう（反応）	かつやく（活躍）	しるす（記す）	できする（適する）	ま（間）	かがやく（輝く）	ただ（唯）	まるで
	ぎょう（行）	そうぞう（想像）	ひ（比）	かなしみ（悲しみ）	じんぶつ（人物）	デザイン	まさしく（正しく）	かぎる（限る）	たたかう（戦う）	みつめる（見詰める）
	きょうつう（共通）	そろえる（揃える）	ひょうか（評価）	かのう（可能）	しんりん（森林）	とういつ（統一）	みんぞく（民族）	かこう（花崗）	たば（束）	みなおす（見直す）
	けいしき（形式）	そんざい（存在）	ふきゅう（普及）	かふん（花粉）	ずいぶん（随分）	どうよう（同様）	むすびつき（結び付き）	がん（癌）	ち（地）	みのまわり（身の回り）
	けんさく（検索）	たいりょう（大量）	ぶんるい（分類）	がめん（画面）	すいへい（水平）	とりくむ（取り組む）	むすびつく（結び付く）	かんずる（感ずる）	ちかづく（近付く）	みらい（未来）
	げんじつ（現実）	だんらく（段落）	へいきん（平均）	かんどう（感動）	すぐれる（優れる）	なお（猶）	めいれい（命令）	ぎゃく（逆）	ちかづける（近付ける）	もと（元）
	けんとう（検討）	ちょうし（調子）	ほぼ（略）	かんどう（感動）	せいかく（正確）	ななめ（斜め）	めぐる（巡る）	きんにく（筋肉）	ちょっかく（直角）	もやす（燃やす）
	こうか（効果）	ちょうてん（頂点）	まとまり（纏まり）	きぎょう（企業）	せいめい（生命）	にゅうりょく（入力）	もくざい（木材）	くみたて（組み立て）	つうずる（通ずる）	やじるし（矢印）
	ごうけい（合計）	ちょうわ（調和）	もとづく（基づく）	きじ（記事）	せきゆ（石油）	のう（脳）	もたらす（齎す）	くみたてる（組み立てる）	てんじ（点字）	ようぐ（用具）
	こうぞう（構造）	ちょくせつ（直接）	わだい（話題）	きずく（築く）	せっする（接する）	のうぎょう（農業）	もの（者）	けす（消す）	どう（銅）	よろこび（喜び）
	こうもく（項目）	つかむ（掴む）		きっかけ	ぜんしん（全身）	のばす（延ばす）	もよう（模様）	けっかん（血管）	ととのえる（整える）	わ（輪）
				きんし（禁止）	ぞう（像）	のびる（延びる）	やくだつ（役立つ）	さ（差）		
				くき（茎）	そくてい（測定）	はいりょ（配慮）	やわらかい（軟らかい）			
				くべつ（区別）	そこ（底）	はつでん（発電）	ようぶん（養分）			
				くみあわせ（組み合わせ）	そとがわ（外側）	はなれる（離れる）	らく（楽）			
				くるしむ（苦しむ）	そんちょう（尊重）	バランス	りったい（立体）			
				げんだい（現代）						

小中学生のための学習リスト3（頻度　中）

	重要度　高			重要度　中				重要度　低		
頻度	あまる（余る）	じょうげ（上下）	ちゅう（注）	アイディア	きたい（期待）	せいいく（生育）	はいち（配置）	あたたまる（温まる）	さて	てん（天）
中	あんてい（安定）	じょうしょう（上昇）	ていか（低下）	あきらか（明らか）	きぼう（希望）	せいけつ（清潔）	はずす（外す）	あふれる（溢れる）	しあげる（仕上げる）	でんげん（電源）
	おうよう（応用）	しんぽ（進歩）	でんたつ（伝達）	あつまり（集まり）	ぎむ（義務）	せいげん（制限）	はんしゃ（反射）	アンケート	シート	ととのう（整う）
	かいぜん（改善）	すうち（数値）	はいけい（背景）	あつりょく（圧力）	きゅうそく（急速）	せきたん（石炭）	ビタミン	い（胃）	しお（潮）	とりつける（取り付ける）
	かんかく（間隔）	すうりょう（数量）	はつげん（発言）	あまり（余り）形	ぎょうじ（行事）	せきにん（責任）	ふあん（不安）	いだく（抱く）	じどう（児童）	にる（煮る）
	かんじょう（感情）	せいてい（制定）	はんい（範囲）	あまり（余り）名	きょか（許可）	せっけい（設計）	ふくげん（復元）	いっしょう（一生）	しめる（湿る）	ぬける（抜ける）
	くうかん（空間）	せいりつ（成立）	はんせい（反省）	あらわす（表す）	きんねん（近年）	そざい（素材）	ふくし（福祉）	いれかえる（入れ替える）	しんずる（信ずる）	ねんりょう（燃料）
	くうらん（空欄）	ぜったい（絶対）	ひょうじょう（表情）	いっそう（一層）	くわわる（加わる）	そなえる（備える）	ふくめる（含める）	いんさつ（印刷）	すいめん（水面）	のぞく（覗く）
	くぎる（区切る）	そうさ（操作）	ぶんたん（分担）	いったい（一体）	けっしょう（結晶）	そろう（揃う）	ふくらむ（膨らむ）	うばう（奪う）	すきま（隙間）	はっする（発する）
	けってい（決定）	そうち（装置）	へんしゅう（編集）	うかべる（浮かべる）	けんせつ（建設）	たいさく（対策）	ふさわしい（相応しい）	えんずる（演ずる）	すてき（素敵）	はり（梁）
	げんしょう（減少）	そくめん（側面）	ほうこく（報告）	うく（浮く）	げんそく（原則）	だいしょう（大小）	ふそく（不足）	おかす（犯す）	せまる（迫る）	ひなた（日向）
	げんしょう（現象）	そしき（組織）	まったく（全く）	うしなう（失う）	こうじょう（向上）	たいない（体内）	ふんか（噴火）	おさない（幼い）	せんい（繊維）	ひふ（皮膚）
	げんりょう（原料）	たいしょう（対象）	むだ（無駄）	うつる（写る）	こころがける（心掛ける）	たび（度）	ふんべつ（分別）	おそう（襲う）	そえる（添える）	ひょう（雹）
	こうそう（構想）	ちてん（地点）	ようご（用語）	えいぞう（映像）	こんご（今後）	たよう（多様）	ほうい（方位）	おもいつく（思い付く）	そそぐ（注ぐ）	ひる（干る）
				えいよう（栄養）	さい（際）	ちしき（知識）	ほうもん（訪問）	かかえる（抱える）	た（田）	ふさぐ（塞ぐ）
				おうふく（往復）	さかえる（栄える）	ちじょう（地上）	まげる（曲げる）	かくほ（確保）	たい（対）	ふれあう（触れ合う）
				おそれ（恐れ）	さける（避ける）	ちょうせい（調整）	まじる（混じる）	かくれる（隠れる）	だいず（大豆）	まぜあわせる（混ぜ合わせる）
				およぶ（及ぶ）	さんせい（賛成）	ついに（遂に）	ますます（益々）	かざり（飾り）	だいぶつ（大仏）	みちる（満ちる）
				およぼす（及ぼす）	しかも（然も）	つくりだす（作り出す）	まち（街）	かじつ（果実）	たいら（平ら）	むく（向く）
				おり（折）	しげき（刺激）	てがかり（手掛かり）	みずから（自ら）	かたまり（固まり）	たく（炊く）	むれ（群れ）
				おん（音）	じこく（時刻）	とうじょう（登場）	みたす（満たす）	かなり	たどる（辿る）	め（芽）
				がい（害）	しじ（指示）	とかす（溶かす）	みちすじ（道筋）	かれる（枯れる）	たまる（溜まる）	メッセージ
				かいてき（快適）	しじょう（市場）	どくじ（独自）	めあて（目当て）	かんしゃ（感謝）	たんけん（探検）	メディア
				かきいれる（書き入れる）	しめる（占める）	どくとく（独特）	モデル	き（記）	ちょう（兆）	めやす（目安）
				かきこむ（書き込む）	じゅうじつ（充実）	とつぜん（突然）	ものごと（物事）	きざむ（刻む）	ちょうせん（挑戦）	めん（綿）
				かこ（過去）	しゅうしゅう（収集）	とばす（飛ばす）	やくひん（薬品）	ぎん（銀）	ちる（散る）	もけい（模型）
				かせん（河川）	しゅうだん（集団）	とりくみ（取り組み）	やぶる（破る）	くずれる（崩れる）	つきつめる（突き詰める）	もちあげる（持ち上げる）
				かた（型）	しゅうへん（周辺）	とりのぞく（取り除く）	ゆうじん（友人）	くむ（汲む）	つぐ（次ぐ）	もどす（戻す）
				かたまる（固まる）	じゅんかん（循環）	ないぶ（内部）	ゆらい（由来）	こい（濃い）	つくす（尽くす）	もともと（元々）
				かたむける（傾ける）	しょうか（消化）	なめらか（滑らか）	ようき（容器）	こぐ（漕ぐ）	つね（常）	ものづくり（物作り）
				かたる（語る）	しょうずる（生ずる）	なやむ（悩む）	よっきゅう（欲求）	ごく（極）	つむ（積む）	もる（盛る）
				かつ（且）	じょうはつ（蒸発）	なりたち（成り立ち）	りょうたん（両端）	こする（擦る）	つる（吊る）	やくしょ（役所）
				かつて（嘗て）	しょうりょう（少量）	にちじょう（日常）	れつ（列）	こっきょう（国境）	つるす（吊るす）	やや
				かっぱつ（活発）	しょくぎょう（職業）	ねんれい（年齢）	れんぞく（連続）	さい（才）	であい（出会い）	ゆれ（揺れ）
				かねつ（加熱）	しんせん（新鮮）	のうど（濃度）	わくせい（惑星）	さしこむ（差し込む）	てあて（手当て）	よびかける（呼び掛ける）
				きおく（記憶）	しんどう（振動）	のびる（伸びる）	わざ（技）	さそう（誘う）	ていれ（手入れ）	ろう（蝋）
				きぐ（器具）	すでに（既に）			さっか（作家）	できあがる（出来上がる）	わき（脇）

小中学生のための学習リスト4（頻度　低）

	重要度　高		重要度　中				重要度　低			
頻度	いし（意志）	せっち（設置）	あいず（合図）	かんそう（乾燥）	しゃめん（斜面）	にちじ（日時）	あう（遣う）	くさる（腐る）	せいこう（成功）	はじまり（始まり）
低	いじょう（異常）	たいど（態度）	あてはめる（当て嵌める）	かんり（管理）	じゅうし（重視）	のぞく（除く）	あむ（編む）	くむ（組む）	せきどう（赤道）	パス(pass)
	かんてん（観点）	だんかい（段階）	あらかじめ（予め）	きかん（期間）	しゅうり（修理）	はいしゅつ（排出）	いきいき（生き生き）	クリック	せんしゅ（選手）	はなつ（放つ）
	きそ（基礎）	てき（的）	あらためて（改めて）	きちょう（貴重）	しゅんかん（瞬間）	はっこう（発行）	いたむ（痛む）	くわえる（銜える）	そめる（染める）	ばね
	こうさつ（考察）	はかる（測る）	あらゆる	きぼ（規模）	じゅんばん（順番）	はつねつ（発熱）	いたる（至る）	げいじゅつ（芸術）	たえる（耐える）	はりがね（針金）
	こうりつ（効率）	ひてい（否定）	いじ（維持）	きゅうげき（急激）	しょうがい（生涯）	はつめい（発明）	いちいん（一員）	こ（粉）	たおす（倒す）	ひきおこす（引き起こす）
	こせい（個性）	ひはん（批判）	いぜん（以前）	きょくせん（曲線）	しょうじょう（症状）	ふくすう（複数）	いとなむ（営む）	こうこく（広告）	たがやす（耕す）	ひきつける（引き付ける）
	こんなん（困難）	ひよう（費用）	いちじるしい（著しい）	きょだい（巨大）	しょうずる（生ずる）	ぶっし（物資）	イラスト	こおる（凍る）	たき（滝）	ひとこと（一言）
	さいだい（最大）	ふよう（不要）	いっしゅ（一種）	くだる（下る）	しょくもつ（食物）	プレート	いるい（衣類）	こげる（焦げる）	たけ（竹）	ひな（雛）
	じっせん（実践）	ぶんせき（分析）	いっち（一致）	くろう（苦労）	しんけい（神経）	ぶんめい（文明）	いわう（祝う）	こす（濾す）	たすけあう（助け合う）	びょう（鋲）
	してい（指定）	ぶんや（分野）	いり（入り）	けいこう（傾向）	すいてい（推定）	へる（経る）	うけて（受け手）	このみ（好み）	たっする（達する）	ふかまる（深まる）
	しどう（指導）	ほうどう（報道）	いりょう（医療）	けいせい（形成）	すじ（筋）	ほう（法）	うつわ（器）	コミュニケーション	ダム	ふきだす（吹き出す）
	しゅうきょう（宗教）	みだし（見出し）	うけいれる（受け入れる）	けいそく（計測）	すなわち（即ち）	ぼうし（防止）	うむ（生む）	こや（小屋）	ためす（試す）	ふくそう（服装）
	しゅだん（手段）	ようし（用紙）	うけみ（受け身）	げんり（原理）	せいか（成果）	ボランティア	おう（追う）	ころがす（転がす）	ちからづよい（力強い）	ふと
	しょうめん（正面）	ようそ（要素）	うすめる（薄める）	こうい（行為）	せっちゃく（接着）	まとまる（纏まる）	おえる（終える）	こんにち（今日）	ちぢむ（縮む）	へいち（平地）
	じりつ（自立）	ようてん（要点）	うつりかわり（移り変わり）	こうおう（高温）	せってい（設定）	みりょく（魅力）	おおあめ（大雨）	ざ（座）	ちょうこく（彫刻）	ほぐす（解す）
	しんこう（進行）	よそく（予測）	えいせい（衛生）	こうがい（公害）	せんたん（先端）	めいしょう（名称）	おおむかし（大昔）	さけ（鮭）	つかいわける（使い分ける）	ほす（干す）
			える（得る）	こくど（国土）	そうげん（草原）	めぐみ（恵み）	おごなう（補う）	さます（冷ます）	つげる（告げる）	マイナス
			えんじょ（援助）	こくめい（国名）	たいき（大気）	めだつ（目立つ）	おさめる（収める）	さめる（冷める）	つとめる（務める）	まねく（招く）
			おきかえる（置き換える）	ここち（心地）	たすう（多数）	ゆうがい（有害）	おちば（落ち葉）	し（死）	つとめる（務める）	まめ（豆）
			おせん（汚染）	さいげん（再現）	たとえる（例える）	ゆうき（勇気）	かおり（香り）	しあわせ（幸せ）	てだすけ（手助け）	まるみ（丸み）
			おりまげる（折り曲げる）	さいせい（再生）	たにん（他人）	ゆうこう（有効）	かかす（欠かす）	しく（敷く）	てづくり（手作り）	まるめる（丸める）
			かいしゅう（回収）	さす（指す）	たよる（頼る）	ゆうじょう（友情）	かく（角）	じっくり	とうとい（尊い）	みかける（見掛ける）
			かいすう（回数）	さびる（錆びる）	だん（段）	ゆるやか（緩やか）	がく（萼）	しぼう（死亡）	どくしょ（読書）	みぎうえ（右上）
			かいてい（海底）	しえん（支援）	だんめん（断面）	ようきゅう（要求）	かくす（隠す）	しゅ（種）	としつき（年月）	みわたす（見渡す）
			かいふく（回復）	しき（四季）	ちえ（知恵）	ようやく（漸く）	がけ（崖）	しゅう（州）	とそう（塗装）	むく（剥く）
			かいめん（海面）	じさ（時差）	ちゃくもく（着目）	よさん（予算）	かぜとおし（風通し）	しょうじょ（少女）	とび（跳び）	むね（旨）
			かいりょう（改良）	じしん（自信）	つうか（通過）	よみとる（読み取る）	かたむく（傾く）	しょうてん（商店）	とりこむ（取り込む）	めだか（目高）
			かかわりあう（関わり合う）	じする（辞する）	つくりあげる（作り上げる）	ろくおん（録音）	かためる（固める）	しょうめい（証明）	とりまく（取り巻く）	もうける（設ける）
			かく（核）	じぜん（事前）	てまえ（手前）	わずか（僅か）	かだん（花壇）	しょっき（食器）	とりまく（取り巻く）	もり（盛り）
			かてい（過程）	しそん（子孫）	とうめい（透明）	わずか（僅か）	かぶせる（被せる）	しらべ（調べ）	なかみ（中身）	やくだてる（役立てる）
			かんかく（感覚）	じっしゅう（実習）	とくせい（特性）		かまえる（構える）	しろ（城）	なぞる	やぶれる（敗れる）
			かんしょう（鑑賞）	しや（視野）	とくてい（特定）		かみ（神）	じんせい（人生）	にゅうしゅ（入手）	
							かわかす（乾かす）	す（巣）	ぬし（主）	
							かん（管）	すいこむ（吸い込む）	ネットワーク	
							き（機）	すき（隙）	ねる（練る）	
							キー	すくう（救う）	のうやく（農薬）	
							きく（利く）	すそ（裾）	のはら（野原）	
							きずつける（傷付ける）	すばやい（素早い）	はう（這う）	
							きゅうじつ（休日）	するどい（鋭い）	はえる（生える）	
							きん（金）	ずれる	はがす（剥がす）	
							ぐ（具）		はく（箔）	